

保健衛生学

責 任 者・コーディネーター		医療薬科学講座衛生化学分野 杉山 晶規 教授	
担当講座・学科(分野)		医療薬科学講座（衛生化学分野、薬物代謝動態学分野）	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 26 時間（13 コマ）
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・ねらい

ヒトの病気を理解するには、個々の患者における病因や病態を調べるだけでなく、ヒトを集団として捉えて解析する疫学的手法が重要な方法となっている。これまで疫学的手法を用いて、様々な疾患の病因、環境要因、宿主要因が明らかにされ、さらに発症に関する危険因子や防御因子が見いだされている。本講義では、ヒトの健康および疾患を、社会集団の観点から理解するために必要な保健統計や疫学について学ぶとともに、感染症や生活習慣病などの疾患の現状とその予防法を解説する。また、職業病の予防などを含む労働者の衛生管理についても解説する。これにより疫学、感染症、生活習慣病、労働者の衛生管理などについて、公衆衛生的な見地から、対応策や予防法を考えることができるようになる。

・学修目標

- 1) 公衆衛生上の課題の疫学的解析の手法を説明し、これに基づいて解決策を考え、説明できる。
- 2) 環境要因によって起こる様々な疾病や健康被害について説明し、適切な予防法を説明できる。
- 3) 環境要因によって起こる疾病や健康被害について、社会的な影響や国際的な動向を説明し、関連する規制・制度や関連法規を理解するとともに、予防策や防止策を考えることができる。
- 4) 感染症の発生状況や対応する保健・医療体制、社会的な影響、国際的な動向を説明し、関連する規制・制度や関連法規を理解するとともに、予防策やまん延防止策を考えることができる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

E-1-1 環境要因によって起こる疾病の予防と健康被害の防止
 E-1-2 人の健康を脅かす感染症の予防とまん延防止
 B-5-1 保健医療統計

・学修事項

- (1) 保健統計の概要とその意義、及びわが国における変遷
- (2) 健康と疾病の概念の変遷と現状
- (3) 生活習慣病の現状と危険因子
- (4) 疾病予防の基本的な考え方と、わが国及び世界（WHO）の健康増進政策
- (5) 感染症の現状とその予防
- (6) 母子保健の概要と関連する疾病の予防策
- (7) 疫学の役割、種類とその方法とリスク指標の計算
- (8) 目的に応じた疫学研究の手法選択とその研究の概要
- (9) 主な職業病とその原因と疾患

(10) 労働衛生管理

・ この科目を学ぶために関連の強い科目

食品栄養学、環境衛生学、微生物学

・ この科目を学んだ後につなげる科目

毒性学、感染症学、実践衛生薬学

・ 講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/7	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	概論、人口統計 1. 保健統計の概要とその意義、わが国における変遷について説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/9）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/14	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	健康と疾病の現状 1. 健康と疾病の概念の変遷と現状について、その概要を説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/16）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/21	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	生活習慣病（1） 1. 生活習慣病という概念を説明できる。 2. 生活習慣病（がん、循環器疾患、高血圧）の現状と危険因子について説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/23）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。

4/24	金	4	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	生活習慣病（２） 1. 生活習慣病（糖尿病、COPD、メタボリックシンドローム）の現状と危険因子について説明できる。 2. 健康増進法と健康日本 21 について概説できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：4/27）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/28	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	疾病予防概論 1. 疾病予防の基本的な考え方と、わが国の健康増進政策を概説できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：5/1）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/12	火	1	衛生化学分野	米澤 穂波 助教	感染症（１） 1. 感染症が発症するまでの過程を概説できる。 2. 感染症法の基本的な考え方と、主な対象疾患を概説できる。 3. わが国及び世界で問題となっている主な感染症を挙げ、それらの特徴や現状について説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：5/14）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/19	火	1	衛生化学分野	米澤 穂波 助教	感染症（２） 1. 感染症予防の基本的な考え方を説明できる。 2. わが国で実施されている予防接種について説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。

					事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：5/21）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/26	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授 米澤 穂波 助教	中間試験 1. これまでの講義内容の理解度や定着度を確認する。70%以上の得点率を目標とする。この時期での到達目標を少し高めとすることにより、最終的な達成度を向上させることができる。 事前学修：これまでの授業範囲を総復習すること。 事後学修：試験問題を復習し、知識定着の完成度を高めること。
6/2	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授 米澤 穂波 助教	母子保健 1. 母子保健の概要と、関連する疾病の予防策について説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出締切：6/4）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/9	火	1	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	疫学（1） 1. 疫学の役割、種類とその方法について説明し、主なりスク指標を計算できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や演習問題を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/16	火	1	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	疫学（2） 1. 目的に応じた疫学研究の手法を選び、その研究の概要を説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や演習問題を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/22	月	4	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	生活習慣病（3）

				米澤 穂波 助教	1. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議できるようになる。 【PBL、調査学修】 【ICT (Google フォーム)】 事前学修：これまでの講義の資料や新聞、書籍、ネット情報等を収集しておくこと。 事後学修：他学生の意見を聞き、新たに発見したことや自分の意見との相違点等をまとめておくこと。
6/23	火	1	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	学校保健、産業保健など 1. 学校保健の概要と学校薬剤師の役割について説明できる。 2. 主な職業病を列举し、その原因と疾患の概要を説明できる。 3. 労働衛生管理について説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：教科書の該当範囲を一読し要点を確認しておくこと。 事後学修：講義資料や宿題プリント（提出なし）を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	○
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	◎
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	○

・評価事項とその方法

中間試験（記述式 19%、MCQ 1%）、定期試験（記述式 25%、MCQ 55%）

学修事項	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、2	2、4	5			14			19
3、4	1、2、4	6			18			24
5	1、2、4	9			16			25
6	1、2、4				8			8
7、8	2、4				17			17
9、10	2、4				7			7
合計		20			80			100

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	衛生化学詳解 上 第3版	浅野 哲、阿部 すみ子、荒田 洋一郎、大塚 文徳、川嶋 洋一、工藤 なをみ、杉山 晶規、吉成 浩一	京都廣川書店	2020

・特記事項・その他

・予習復習のポイント

授業に対する事前・事後学修の時間はそれぞれ予習 15 分、復習 30 分を要する。

討議（PBL、調査学修）に対する事前・事後学修の時間はそれぞれ予習 30 分、復習 15 分を要する。

中間試験前には 3 時間程度、定期試験前には 7 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

復習は積極的に行い、講義のプリントを確認し課題にも取り組むこと。

・試験や課題に対するフィードバック等

提出された宿題プリントは、添削・採点して返却するとともに次回の講義の冒頭で、内容についてフィードバックする。中間試験は、結果について個人成績カルテを作成、返却し、解説を行う。定期試験後には、フィードバックとして補講等を実施する。宿題プリントには、講義に関する学生の要望の記入欄を適宜設け、要望を講義に反映する。

・当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	スライド投影のため
講義	デスクトップパソコン	1	講義資料作成
講義	iPad	1	スライド投影のため

